滋賀中日

大津支局
大津市京町四丁目
(〒520-0044)
077(523)3388
FAX077(524)4447

彦根支局
彦根市古沢町661の2
(〒522-0007)
0749(22)1234
FAX0749(24)5112

(広告)(23)4018

長浜通信局
0749(62)0436
FAX0749(62)0437

近江八幡通信局
0748(33)3456
FAX0748(33)3416

甲賀通信局
0748(62)0347
FAX0748(62)0459

東近江通信部
0748(22)0331
FAX0748(24)0702

草津通信部
077(562)0620
FAX077(565)9359

木之本通信部
0749(82)3050
FAX0749(82)4821

ニュースは上の電話へ

読者センター
052(221)0800

人生最期に寄り添う

頑張る湖国の会社

近江輝業

「遺品整理士」認定、生前の不用品も

独り暮らしをしていて亡くなった人などが残した品々を遺族に代わり整理する「遺品整理士」の認定制度を設けている「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市)の認定企業に、今年三月、県内の企業としては初めて認められた。誰にもみとられずに死亡する「孤独死」が増加傾向にある中、遺族の負担軽減や、人生の最期に向けた活動支援など幅広いサポートを目指す。

＝(下)＝

セカンドライフサポート(草津市)

母体は、土木工事や産業廃棄物収集を請け負う新和工業。同社でさまざまな家屋解体工事を引き受ける中、亡くなった人の住居を整理する機会がたびたびあり、社員が死者の生前の希望や、遺族の思いに基づいた遺品整理をしていく必要性に気付いたのが、遺品整理業に乗り出したきっかけだ。

遺品整理の現場では、昔ながらの家族の結び付きが薄れ、業者の需要が増す一方、廃棄物処理の許可を得ないまま無許可で営業している業者や、整理費用を高額に請求する業者もあり、社会問題化している。信用性の高いサービスを提供するため、同社の松原勇社長が遺品整理士に認定されたのを機に、社内に遺品整理業に特化した部門を立ち上げ、別の社名で活動をスタートさせた。

業務では、遺品整理のほか、法令に基づいた遺品処分や供養、買い取りなどをしていく。料金の目安は、台所付きの一部屋が四万八千円で、部屋の間取りや広さによって金額が変動する。

生前の不用品整理の業務にも主眼を置いている。高齢者が施設に入所する際や、部屋の明け渡しに伴う家財整理、独り暮らしの人が陥りがちな〝ごみ屋敷〟の片付けなども引き受ける。

こうした生前の不用品整理を依頼した人には、協会が作成した「エンディングノート」を渡し、将来の葬儀などについて希望を記してもらう。担当の西原卯宏(しげひろ)さんは「ノートを記入することで、これまでの生き方を見詰め直すことができる。生前整理を通じて新しい人生を踏み出すための断捨離をしてもらい、孤独のまま亡くなってしまう人を少しでも減らしていきたい」と話す。

(中尾吟)

遺品整理士認定協会から送られた認定証と生前整理希望者に渡すエンディングノート＝草津市で

セカンドライフサポート

母体の新和工業は2000年に設立。建物解体、土木工事、産廃収集運搬のほか、ソーラー発電工事業なども手掛ける。今年3月に全国で100社ほどある「遺品整理士認定協会」の認定企業になった。所在地は草津市木川町。問い合わせは、フリーダイヤル(0120)810861

来場者最多の3万7589人

大津 ラ・フォル・ジュルネ閉幕

大津市打出浜のびわ湖ホール一帯で二十七～二十九日開かれた、クラシック音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」(中日新聞社後援)。三日間の来場者数は昨年を六千五百人余り上回る過去最多の三万七千五百八十九人となり、関係者は来年以降の開催への手応えをつかんだ。

ホールによると、来場者は二〇一〇年度の第一回の二万三千七百九十九人から、毎年順調に伸びており、ホールは「連休の行事として定着し、子ども向けの公演に力を入れたことなどが奏功した」と分析する。今年は特に県内在住者が多く73%を占め、女性や十歳未満の子どもが著しく増えるなどの特徴があった。

最終日も会場や周囲の広場などにはクラシックファンが詰め掛け、ホールの声楽アンサンブルや大阪フィルハーモニー交響楽団などの公演に聴き入った。

音楽プロデューサーのルネ・マルタンさんは「また来たいと思ってもらえる音楽祭になってきた。滋賀の聴衆の集中力は高く、アーティストも滋賀に来ることを楽しみにしている」と語り「来年も開いて四万人の来場者を目指したい」と意気込んだ。

(中尾吟)

無料公演を聴く多くの来場者で埋まったびわ湖ホールのロビー＝大津市のびわ湖ホールで

大津の魅力PR

びわ湖観光大使 竹内さん中野さん

びわ湖大津観光協会は二十九日、大津市の観光をPRする本年度の「びわ湖大津観光大使」の選考会を開き、いずれも市内に住む、会社員竹内彩貴さん(二四)と京都橘大三年中野由衣さん(二〇)の二人を選んだ。

本年度のびわ湖大津観光大使に決まった竹内彩貴さん㊨と中野由衣さん＝大津市浜町の琵琶湖ホテルで

クマにご注意

湖北地域、出没相次ぐ

湖北地域の山沿いの地域でのクマの出没が今年は早めとなっている。四月下旬までに長浜、米原市で計四件の目撃情報が寄せられた。県は「クマは雑食。家の周囲に生ごみを置いたり、畑の作物を収穫せず放置したりしないでほしい」と注意を呼び掛けている。

長浜市では四月一日、西浅井町菅浦の奥琵琶湖パークウェイを散歩中の男性が、山から下りてきた一頭を目撃。二十四日には、同町山門の県道を車で走行中の男性が、道端を走る一頭とすれ違った。

昨年の初出没は、長浜市野瀬町で四月二十七日だったが、今年は一カ月ほど早い。県は「桜の開花にみられるように今年は暖かくなるのが早かったからだろう」とみる。

米原市では今月十四日、春照の畑でクマとみられる一頭が歩いているのを確認。十六日は上野の運動場で、北側の山に向かう一頭が目撃された。いずれも集落外れだった。

今年の米原市の初出没は二月十一日にも同市内で目撃される一頭

威勢良く蹴り奴振り

米原 坂田神明宮で春祭り

江戸時代の大名行列を再現した「蹴り奴振り」が二十九日、米原市宇賀野の坂田神明宮であった。

坂田神明宮は一七三三(享保十八)年、彦根藩主・井伊直惟(なおのぶ)が社殿を再建。新装した際に参詣した藩主らの行列の様子を後世に伝えようと、一九一七(大正六)年から春の祭礼で毎年実施されている伝統行事。

厄年の四十二歳を中心に、地元の男性十六人が奴となり、紺の法被にすげがさ姿で坂田神明宮を[illegible]ハーヨンの掛け声[illegible]被の袖を後ろに[illegible]

足を後ろに蹴り上げながら練り歩く奴[illegible]

黄砂 きょう あす

こよみ 1日